

平成 2 6 年度

(第 3 / 3 回)

(課題別研修)

地域における湿地の
生物多様性の保全と持続的利用

実施要領

平成 2 6 年 5 月

独立行政法人国際協力機構 (JICA)

Japan International Cooperation Agency

目 次

1. コース基本情報	1
2. コース背景・目的	1
3. 案件目標	2
4. 単元目標	2
5. 研修プログラム	2
6. 研修員参加資格要件	3
7. 研修実施体制	4
8. 研修の評価	5
9. 研修付帯プログラム	5
10. 主な宿泊場所	6
11. その他	6

参考資料

付表－1 研修員関連情報

付表－2 研修カリキュラム

付表－3 平成26年度日程表(案)

付表－4 年度別受入実績表

1. コース基本情報

(1) コース名

和文：（課題別研修）地域における湿地の生物多様性の保全と持続的利用

英文：Group and Region-Focused Training Program on “Conservation and Sustainable Use of Biodiversity to the Wetland Ecosystems on Community Base”

(2) 受入期間

平成 26 年 5 月 20 日（火）～ 7 月 9 日（水）

(3) 技術研修期間

平成 26 年 5 月 26 日（月）～ 7 月 8 日（火）

(4) 定員、割当国

定 員：6 名（受入数 6 名）

割当国：アルバニア、メキシコ、ウガンダ

（個別型）マレーシア、コスタリカ（下線は受入国）

(5) 研修類型：人材育成普及型

(6) 使用言語：英語

2. コース背景・目的

近年の世界的最重要課題である気候変動の防止に係わる水資源の管理、温室効果ガス発生の抑制等、様々な課題において湿地の重要性が再認識されている。

途上国においては、とりわけ湿地の適正かつ持続可能な利用が地域住民の生活に直接的に大きな役割を果たしていることがあり、湿地保全と利用の均衡を保つための活動が重要となっている。

日本は湿地を農・漁業分野で活用しており、他国に対しても湿地保全と利用にかかる有益な情報や技術の提供と人材の育成が期待されている。

本件は、自然資源を活用した持続可能な地域開発を可能にするために必要な、地域住民との協働による保全活動や普及啓発・環境教育の推進、またエコツアー等の経済活動導入の手法等について、生物多様性の中核的要素の一つであり、今なお、世界的に減少、劣化

が進行している湿地を題材に、日本における保全と持続可能な利用の事例を通し、その理念・技術の移転を図ることを目的としている。

3. 案件目標

途上国の中央あるいは地方レベルの湿地保全行政、生物多様性保全行政に携わる中堅行政官もしくは専門家が、地域住民の参加による湿地環境および生物多様性の保全に配慮した適正な利用に係わる活動計画を実施できるようになる。

4. 単元目標

- 単元目標 1：湿地の生物多様性の保全のための知識、情報および政策について説明できる。
- 単元目標 2：研修員の所属組織における、湿地の生物多様性の保全にかかる方針と施策について状況を分析できる。
- 単元目標 3：湿地環境および生物多様性モニタリングのための調査手法および適正な管理について学習し、現実的な実施案を作成できる。
- 単元目標 4：住民参加と普及啓発、環境教育の必要性について理解し、研修員の所属組織における実施案を作成できる。
- 単元目標 5：自国の湿地および生物多様性保全と適正な利用推進のための活動計画（案）を作成できる。

5. 研修プログラム

1) 「初期報告書 (Inception Report)」の作成

研修の主題にかかる研修員および所属組織の課題やそれに対する現在の組織としての対策・枠組みをまとめ、本邦でのコース開始時に発表する。

2) 「中間報告書 (Interim Report)」の作成

本邦研修終了時に「湿地および生物多様性の保全と適正な利用促進」に関する帰国後の活動計画（案）を作成し、発表する。

3) 「最終報告書 (Final Report)」の作成

本邦研修を修了し帰国した研修員は、中間計画書に書かれた活動計画（案）を基に活動計画の母国での実施状況につき、帰国後 3 ヶ月以内に JICA に最終報告書を提出す

る。

6. 研修員参加資格要件

募集要項記載条件

ア. 湿地環境または生物多様性の保全に係わる実務者。

イ. フィールド活動できる体力を有する者。

ウ. 2年以上の経験を有する者。

エ. 原則48歳以下の者。

各コース共通資格要件

ア. 所定の手続きにより割当国政府から推薦されること。

イ. 大学卒業あるいは同等の学力を有すること。

ウ. TOEFL iBT 72点（CBT 200点／PBT 533点）以上に相当する英語能力を有すること。

エ. 心身ともに健康なこと。

オ. 軍に属していないこと。

7. 研修実施体制

本コースは、コースリーダーである新庄久志氏の助言のもと、独立行政法人国際協力機構北海道国際センター（帯広）（以下 JICA 帯広）が計画するコースの実施に関する業務を釧路国際ウェットランドセンター（以下 KIWC）に委託し、関係諸機関の協力により実施・運営する。技術研修期間中、JICA は研修監理員を配置する。具体的業務分担は次のとおり。

(1) JICA 帯広

ア. 実施計画書作成（案件目標、単元目標、研修期間等）

イ. 評価

ウ. 実施予算の執行管理

エ. 募集要項および実施要領等の作成等

(2) KIWC

- ア. 日程表の調整・作成
- イ. 講師、視察先等への連絡・確認
- ウ. テキスト、資料等の手配 等

(3) コースリーダー

研修の計画、実施、評価の全般にわたる助言等

(4) 研修監理員

- ア. 関係者間の連絡調整
- イ. 通訳・翻訳等

8. 研修の評価

(1) 評価の目的

研修コースの単元目標に基づき、研修成果の測定・分析を通じてコース終了時に案件目標の達成度を確認する。また、今後の研修で改善すべき点をあげ、本コースの質的改善を図る。

(2) 評価の方法

- ア. コースリーダー等による単元目標の達成度把握
- イ. 研修員が提出する質問票による評価
- ウ. JICA による評価

(3) 評価会

研修終了時に質問票の記載事項の確認を中心とした評価会を実施する。

(4) 反省会

研修員の帰国後に、評価結果に基づき JICA 帯広、コースリーダー、KIWC 等が参加し、研修の目的・内容、プログラム構成、指導方法等について協議し、翌年度以降のコース改善に向けて対応方針を検討する。

9. 研修付帯プログラム

(1) ブリーフィング

来日直後に JICA 東京国際センター（以下 JICA 東京）で実施する。JICA 業務およびコース概要説明、研修員登録、旅券・査証の有効期間の確認、支給される諸手当の説明等のほか、日常生活を送る上での諸注意を行う。

(2) ジェネラルオリエンテーション

JICA 東京で実施し、日本の社会と日本人、歴史・文化、政治・行政、経済、教育などを紹介する。

付帯プログラム日程（予定）

日 程	内 容
5 月 21 日（水）	集合ブリーフィング
5 月 23 日（金）	ジェネラルオリエンテーション

10. 主な宿泊場所

東京国際センター（JICA 東京）

所在地：〒151-0066 東京都渋谷区西原 2-49-5

Tel (03) 3485-7051 Fax (03) 3485-7904

* なお、各研修地での宿泊先は JICA が手配する。

11. その他

(1) 修了証書

研修を修了した研修員に JICA から修了証書を授与する。

(2) 研修員の待遇

ア. 入国資格

技術研修を受けるために来日する者は研修査証を取得し、滞在中は日本国法規の適

用を受ける。

イ. 滞在費

JICA 規程に基づき研修を受けるために必要な手当が支給される。

(3) 国際理解教育

国際理解教育の支援のため、本コースに地域の小中学校や住民との相互理解のためのプログラムが一部含まれている。

平成26年度研修カリキュラム

科 目	講義	実習	視察	討論	担当講師	講義内容
単元目標1: 湿地における生物多様性の保全に関する理念・政策について理解し、説明できる。						
日本の湿地保全行政	2			1	環境省自然環境局	日本の湿地保全行政の理念と取り組みについて学ぶ。
日本の生物多様性保全行政	2			1	環境省自然環境局	日本の生物多様性保全行政の理念と取り組みについて学ぶ。
里山を活かした地域づくり	2			1	ケビン・ショート	日本における「里山」の保全と活用の指針や事例を紹介し、水田や二次林などの人為的環境における生物多様性の保全について学ぶ
絶滅のおそれのある野生生物の保全と移入種の管理	2			1	那覇自然環境事務所	島嶼(沖縄)の希少種・固有種保全の事例から、絶滅危惧種保全と外来生物管理のアプローチについて理解する。
生物多様性の保全総論	3			1	マーク・ブラジル	生物多様性保全の目的と意義、今日的課題について総合的に理解する。
単元目標2: 湿地における生物多様性の保全における自国の状況と解決すべき課題について分析できる。						
里山を活かした地域づくり			3	1	ケビン・ショート	田園地帯など人間の生活環境における生物多様性の保全と利用について、大都市近郊の里山の事例から学ぶ
マングローブ湿地林の保全と管理	1			1	那覇自然環境事務所	沖縄の都市部のラムサール湿地における、マングローブ林の保全と利用の手法について学ぶ
生物多様性の賢明な利用			2	1	新庄 久志(釧路国際ウェットランドセンター)	富士山周辺の自然探勝路を視察し、国立公園における遊歩道等の施設整備と、その活用方法について学ぶ
湿地保全と地域づくり	2			1	やんばる自然塾	マングローブ林・サンゴ礁等、亜熱帯の湿地における保全と活用の事例について紹介し、湿地を核とした地域振興について学ぶ
地域における湿地保全の取り組み	2			1	新庄 久志(釧路国際ウェットランドセンター)	釧路湿原の保全の経緯から、地域住民や自治体が湿地保全にはたす役割について学ぶ
地域を活かした湿地環境の賢明な利用		4		1	鶴居どさんこ牧場	在来和種馬によるツアーを紹介し、既存産業を活用した地域づくりや環境教育、環境負荷軽減のための取り組みについて学ぶ。
地域住民による湿原の保全	2	3		1	霧多布湿原ナショナルトラスト	NPOによる湿原のトラスト運動について紹介し、地域住民主体の湿地保全活動について学ぶ
単元目標3: 生物多様性保全におけるモニタリングの重要性について理解し、湿地環境の適正管理のための具体的な方策について説明できる。						
気候変動と生物多様性保全	2			1	樋口 広芳(慶應大学大学院)	気候変動が生物多様性に与える影響について理解し、影響評価のための着目点や手法について学ぶ
生物多様性の保全と管理	1.5	1.5	3	1	生物多様性センター	生物多様性保全を把握するための調査手法、データベースの構築と公開手法を理解する。
湿地の再生修復とモニタリング		2.5		1	新庄 久志(釧路国際ウェットランドセンター) 土佐良範(レイクサイドとうろ)	釧路湿原における河川の蛇行復元を紹介し、自然再生事業におけるモニタリングの重要性とその手法、および環境教育への応用について学ぶ
野生生物の保全と管理	1		1	1	齊藤 慶輔(猛禽類医学研究所)	猛禽類保護の事例から、絶滅危惧種の保護と国際協力について理解する。
持続可能な利用のための保全活動			2	1	澁谷 辰生(厚岸水鳥観察館)	漁業資源保護を目的とした、湿地とその周辺林の保全のための地域住民の取り組みと、自治体による支援の手法について学ぶ。
ラムサール湿地の利用		2		1	曙カヌー工房 新庄 久志(釧路国際ウェットランドセンター)	タンチョウ生息地の別寒辺牛湿原におけるカヌーツアーの例から、野生生物配慮のためのツアーガイドラインの必要性について学ぶ。
住民による絶滅のおそれのある野生生物の保全			2	1	山本 純郎	シマフクロウの保護管理の事例から、絶滅危惧種と生息地の保護における地域住民の役割について理解する。
単元目標4: 湿地・生物多様性保全と利用における地域住民参加の重要性について理解し、普及啓発、環境教育推進のための具体的な方策について説明できる。						
マングローブ林の保全と地域づくり		3		1	やんばる自然塾	マングローブ林でのエコツーリズムの事例から、地域の文化や経験を活かした湿地の利用と保全の方法について学ぶ
サンゴ礁の保全と地域づくり		4		1	やんばる自然塾	サンゴ礁でのエコツーリズムの事例から、地域の文化や経験を活かした湿地の利用と保全の方法について学ぶ
農村における水鳥との共生と水田の保全	1		2	2	呉地 正行(日本雁を保護する会) 大崎市産業政策課	湿地としての価値向上を目的とした、水田の冬期湛水の手法を紹介し、保全活動がもたらす農作物の価値向上の効果について学ぶ
自然情報施設の役割			2	1	新庄 久志(釧路国際ウェットランドセンター)	釧路市立博物館の視察を通じ、自然情報施設の役割について理解し、展示や環境教育の手法について学ぶ
地域における湿地保全の取り組み		3		1	新庄 久志(釧路国際ウェットランドセンター)	地域住民による釧路湿原保全の取り組みを紹介し、湿原保全における集水域管理の重要性について学ぶ
学校教育における湿地保全の取り組み			1.5	1	北海道立標茶高等学校、 新庄 久志(釧路国際ウェットランドセンター)	高校で実施されている、水生植物を活用した水質浄化による釧路湿原自然再生プロジェクトについて、生徒自身が紹介する。
地域における湿原の普及啓発		3	2	2	霧多布湿原センター	自然情報地域自治体とNPOとの連携による普及啓発施設の運営と、学校と連携した環境教育活動の取り組みについて紹介する。
単元目標5: 地域住民による、地域住民のための生物多様性の保全と自然資源のワイズユースの推進に資する活動計画を立案できる。						
プログラムレビューとブリーフィング				10	新庄 久志(釧路国際ウェットランドセンター)	プログラムの終了後、研修員が学んだことや得たアイデアを発表しあい、復習を行うとともに、研修の成果を共有する。 また、これから実施するプログラムの概要やそのねらいについて、事前に説明を行う(原則として週1回)。
研修のふりかえり(ファシリテーションミーティング)				2	新庄 久志(釧路国際ウェットランドセンター)、JICA	研修の終盤に、これまで学んだことを総括し、自国における課題や、その解決に向けて応用できる知見について討論、整理する。
自国における活動計画案の作成指導				15	新庄 久志(釧路国際ウェットランドセンター)	地域における湿地の生物多様性の保全と持続的利用について、自国における課題を解決するための具体案の作成を支援する。
合計	23.5	26	20.5	55		

研修日程表（案）

研修コース名 地域における湿地の生物多様性の保全と持続的利用

研修コース番号 J1404215、J1421650、J1421637

受入形態

課題別研修

研修期間 2014/5/20 ～ 2014/7/9

研修員数

6名

日付	時刻	形態	研修内容	講師又は見学先担当者等		講師 使用 言語	研修場所
				氏名	所属先及び職位		
5/20(火)	～		来日、JICA東京チェックイン				
5/21(水)	9:30 ～ 12:00		ブリーフィング		TIC担当者		TICセミ
5/22(木)	～		発表資料準備				
5/23(金)	9:30 ～ 11:30		ジェネラルオリエンテーション(日本社会と文化)		(TIC手配)		TICセミ
	13:00 ～ 16:15		ジェネラルオリエンテーション(日本の政治と経済)		(TIC手配)		TICセミ
5/24(土)	～		休日				
5/25(日)	～		休日				
	16:00 ～ 17:00		コースリーダー、研修監理員、JICA案件担当者、研修員の顔合わせ	新庄久志CL 大塚久恵CDN	CL/KIWC技術委員長 JICA登録CDN	英	TICセミ408
5/26(月)	10:00 ～ 10:15		環境省表敬	奥主喜美 (予定)	環境省大臣官房審議官 担当：総務課坂本真一課長補佐	日	環境省本庁舎
	15:00 ～ 17:00	講義	JICAブリーフィング、カリキュラムガイダンス	新庄久志 西垣美佐子	CL JICA常広職員	英	TICセミ408
5/27(火)	10:00 ～ 12:00	発表	インセプション・レポート発表会	新庄久志	CL/KIWC技術委員長 環境省、KIWC、JICA	英	TICセミ408
5/28(水)	10:00 ～ 12:00	講義	日本の湿地保全行政	辻田香織	環境省自然環境局野生生物課 登録調査係長	日	TICセミ408
	14:00 ～ 16:00	講義	日本の生物多様性保全行政	柳谷牧子	同自然環境局自然環境計画 サンゴ礁保全専門官	英	TICセミ408
5/29(木)	10:00 ～ 12:00	講義	気候変動と生物多様性保全	樋口広芳	慶応大学大学院 特任教授	英	TICセミ410
5/30(金)	10:30 ～ 12:00	講義	里山を活かした地域づくり	ケビンショート	マックユーエンプロ 代表	英	講師自宅
	12:00 ～ 15:30	実習	里山を活かした地域づくり	ケビンショート	マックユーエンプロ 代表	英	千葉県印西市
5/31(土)	10:00 ～ 15:00	実習	プログラムレビュー&ブリーフィング	新庄久志	CL/KIWC技術委員長	英	TICセミ405
6/1(日)	～		休日				
6/2(月)	9:30 ～ 12:30	講義	生物多様性保全総論	マーク・ラッセル		英	TICセミ405
	12:30 ～ 14:30	講義	生物多様性保全総論(講義・討論)	マーク・ラッセル		英	TICセミ405
6/3(火)			移動(TIC⇒那覇)				
6/4(水)	9:30 ～ 12:00	講義	絶滅のおそれのある野生生物の保全	阪口 法明、他	那覇自然環境事務所 野生生物企画官	英/日	漫湖水鳥・湿地センター
	13:00 ～ 17:00	視察	マングローブ湿地の保全と管理/意見交換	阪口 法明、他	那覇自然環境事務所 野生生物企画官	日	漫湖水鳥・湿地センター
6/5(木)	9:00 ～ 10:15		移動(那覇⇒名護)				
	14:00 ～ 16:00	講義	湿地保全と地域づくり	やんばる自然塾 スタッフ	やんばる自然塾 スタッフ	日	やんばる自然塾
6/6(金)	10:00 ～ 14:00	実習	マングローブ林の保全と地域づくり (リバーカヤック体験)	やんばる自然塾 スタッフ ※新庄久志	やんばる自然塾 スタッフ (サポ：CL/KIWC技術委員長)	日 (英)	慶佐次川
	～		*天候不順の場合は代替プログラム	やんばる自然塾 スタッフ	やんばる自然塾スタッフ		
6/7(土)	9:00 ～ 13:00	実習	サンゴ礁の保全と地域づくり(シーカヤック体験)	やんばる自然塾 スタッフ	やんばる自然塾 スタッフ	日	事務所周辺海域
	(10:00) ～ (13:00)	見学	(*天候不順の場合は美ら海水族館視察)	(新庄久志)	(CL/KIWC技術委員長)	(英)	(美ら海水族館)
6/8(日)			移動(名護⇒東京)				
6/9(月)	10:00 ～ 12:00		プログラムレビュー&ブリーフィング	新庄久志	CL/KIWC技術委員長	英	TICセミ405
6/10(火)	～		休日				
6/11(水)	～		移動(東京⇒富士吉田)				
6/12(木)	10:00 ～ 16:00	講義	生物多様性保全と管理	鍾雅哉、他	生物多様性センター総括企画官	英/日	生物多様性センター
				竹原真理、他	生物多様性センター調査科		
6/13(金)	10:00 ～ 12:00	講義	生物多様性情報システム	本嶋裕介	生物多様性センター情報システム 科長	日	生物多様性センター
6/14(土)	10:00 ～ 16:00	実習	生物多様性の賢明な利用	新庄久志	CL/KIWC技術委員長	英	富士山周辺
6/15(日)	～		移動(富士吉田⇒東京)				
6/16(月)	～		移動(TIC⇒宮城)				

日付	時刻	形態	研修内容	講師又は見学先担当者等		講師 使用 言語	研修場所
				氏名	所属先及び職位		
6/17(火)	10:00 ~ 12:50	講義	農村における水鳥との共生と水田の保全	呉地正行	日本雁を保護する会 会長	日／英	加護坊山、四季彩館
	14:00 ~ 16:00	視察					蕪栗沼とその周辺
6/18(水)	～		移動(宮城→TIC)				
6/19(木)	10:00 ~ 12:00	実習	プログラムレビュー&ブリーフィング	新庄久志	CL/KIWC技術委員長	英	TICセミ405
	13:00 ~ 15:00	講義	地域における湿地保全の取り組み	新庄久志	CL/KIWC技術委員長	英	TICセミ405
6/20(金)	～		休日				
6/21(土)	～		移動(TIC⇒釧路)				
6/22(日)	10:00 ~ 14:30	実習	地域における湿地保全の取り組み	新庄久志	CL/KIWC技術委員長	英	岩井内
6/23(月)	10:00 ~ 12:00	見学	施設における普及啓発	新庄久志	CL/KIWC技術委員長	英	塘路湖エコミュージアムセンター
	13:30 ~ 16:00	実習	湿地の再生修復とモニタリング	新庄久志 サブ：土佐良範	CL/KIWC技術委員長 (サブ：レイサイトとうろ代表取締役役)	英 (日)	釧路湿原茅沼
6/24(火)	10:00 ~ 10:30		釧路市表敬訪問		釧路市役所	日	釧路市役所
	13:30 ~ 14:30	見学	細岡大観望視察	新庄久志	CL/KIWC技術委員長		細岡ビジターズラウンジ
	15:30 ~ 17:00	見学	学校教育における湿地保全の取り組み	標茶高校生徒、新庄久志	標茶高等学校 CL/KIWC技術委員長	日／英	標茶高等学校
6/25(水)	10:00 ~ 15:00	実習	地域を活かした湿地環境の賢明な利用	鶴居どさんこ牧場指導員	鶴居どさんこ牧場	日／英	鶴居どさんこ牧場
6/26(木)	10:00 ~ 12:00	講義	野生生物の保全と管理	齊藤慶輔 渡辺有希子	猛禽類医学研究所代表 同上副代表	英	釧路湿原野生生物保護センター
	14:00 ~ 16:00	見学	施設における普及啓発	新庄久志	CL/KIWC技術委員長	英	釧路市立博物館
6/27(金)	10:00 ~ 12:00	実習	プログラムレビュー、インテリウムレポート作成指導	新庄久志	CL/KIWC技術委員長	英	釧路市交流プラザさいわい201
	14:00 ~ 16:00	実習	ファシリテーションミーティング	西垣美佐子	JICA帯広職員	英	釧路市交流プラザさいわい201
6/28(土)	12:45 ~ 16:45		ホームビジット	齊藤さゆり	KIWC		ホストファミリー宅
	17:00 ~ 18:30		交流会				釧路市生涯学習センター802・803
6/29(日)	～		移動(釧路→根室)				
6/30(月)	10:00 ~ 12:00	実習	住民による絶滅の恐れのある野生生物の保全	山本純郎	シマフクロウ研究家	日	初田牛地区
	13:00 ~ 15:00	見学	ラムサール湿地の保全と利用	新庄久志	CL/KIWC技術委員長		春国岱
7/1(火)	9:00 ~ 12:00	実習	移動(根室→浜中) 地域住民による湿原の普及啓発	中尾美奈	霧多布湿原ナショナルトラスト職員	日	霧多布湿原センター周辺
	12:00 ~ 15:00	講義	地域住民による湿原の普及啓発	河内直子	霧多布湿原ナショナルトラスト職員	英	霧多布湿原センター
7/2(水)	9:30 ~ 13:30	講義	トラストによるエコツアー（無人島ツアー）	瓜田勝也	霧多布湿原ナショナルトラスト副理事長	日	ケンボッキ島
	13:30 ~ 15:30	実習	地域住民による湿原の保全	三膳時子 河内直子	霧多布湿原ナショナルトラスト理事長、同職員	日 英	霧多布湿原トラスト
7/3(木)	10:00 ~ 12:00	講義	持続可能な利用のための保全活動	渋谷辰生	厚岸水鳥観察館	日	厚岸水鳥観察館
	13:00 ~ 15:00	実習	ラムサール湿地の利用	曙カヌー	曙カヌー工房	日	別寒辺牛川
7/4(金)	～		移動(釧路→東京)				
7/5(土)	～	実習	プログラムレビュー	新庄久志	CL/KIWC技術委員長	英	TICセミ405
	～	実習	インテリムレポート作成指導	新庄久志	CL/KIWC技術委員長	英	TICセミ405
7/6(日)	～	実習	インテリムレポート作成指導	新庄久志	CL/KIWC技術委員長	英	TICセミ405
7/7(月)	～	実習	インテリムレポート作成指導	新庄久志	CL/KIWC技術委員長	英	TICセミ405
7/8(火)	10:00 ~ 12:00		インテリムレポート発表会	新庄久志	CL/KIWC技術委員長 環境省、KIWC、JICA	英	TICセミ405
	13:00 ~ 14:00		評価会	西垣美佐子	JICA帯広職員	英	TICセミ405
	14:10 ~ 14:40		閉講式	西垣美佐子	JICA帯広、KIWC	英	TIC
7/9(水)			帰国				

年 度 別 受 入 実 績 表

１．応募／選定（受入）人数

	２４年度	２５年度	２６年度	累計
応 募 数	７名	７名	６名	２０名
受 入 数	７名 (個別型を含む)	７名 (個別型を含む)	６名 (個別型を含む)	２０名

２．研修員の出身国

○男性 ●女性

国 名	２４年度	２５年度	２６年度	累計
(アジア地域)				
中国		○		１名
フィリピン	○			１名
タイ	●			１名
ベトナム	●			１名
マレーシア	●(個別型)	●○(個別型)	●(個別型)	４名
(アフリカ地域)				
ウガンダ	○○(個別型)		○	３名
(欧州地域)				
アルバニア	○(個別型)			１名
(中南米)				
メキシコ		○○○	○●	５名
コスタリカ		●	○○(個別型)	３名
計	６カ国	４カ国	４カ国	９カ国
	７名	７名	６名	２０名



独立行政法人国際協力機構 北海道国際センター（帯広）
〒080-2470 北海道帯広市西20条南6丁目1番地2
TEL：0155-35-1210 FAX：0155-35-1250
ホームページ：www.jica.go.jp/obihiro/
メール：jicaobic@jica.go.jp